



国文学研究資料館 2025

National Institute of Japanese Literature



『彩画職人部類』



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
National Institutes for the Humanities

Contents



©えくてびあん

館長 渡部 泰明

データ駆動による課題解決型人文学の創成 —データ基盤の構築・活用による次世代型人文学研究の開拓—	4
古典籍データ駆動研究センター	8
基盤データセンター	10
国書データベース	12
公開データベース	13
共同研究	14
基幹事業センター	16
若手研究者支援	22
大学院教育	23
国文学研究資料館について	24
人間文化研究機構について	30



ようこそ、国文学研究資料館へいらっしゃいました。
私がお案内いたしましょう。館長の渡部泰明です。



Q まず聞きましょう。今一番力をいれていることは何ですか？

A 「データ駆動による課題解決型人文学の創成—データ基盤の構築・活用による次世代型人文学研究の開拓—」という事業を推進しています。2024年度から、10年間の計画で開始しました。「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」(2014～2023年度)の最大の成果、古典籍30万点の画像データをどう利活用するか、という事業です。

[4 ページへ](#)



Q 何を目指していますか？

A 古典籍の膨大なデータを、領域の垣根を超えて活用することで、新しい人文学研究を開拓することを目指しています。データベース運用等を基幹事業センター、データの拡充・高度化等を基盤データセンター、研究等を古典籍データ駆動研究センターがそれぞれ担い、本事業を進めています。

[古典籍データ駆動研究センター 8 ページへ](#)

[基盤データセンター 10 ページへ](#)

[基幹事業センター 16 ページへ](#)



イラスト 杉田圭



Q これまでの活動とのつながりは？

A 創立以来 53 年、日本文学関連領域の研究の基礎となる情報を集積し整備してきました。そのデータ基盤をさらに拡充・高度化していきます。

10 ページへ



Q これが成果だ、といえるのは？

A 国書データベースです。現在わかっているあらゆる日本の古典籍の情報・画像を、簡便に検索できます。そのほかにも諸種のデータベースを公開していますので、ぜひご利用ください。

12・13 ページへ



Q 研究者コミュニティとの連携はどう図っていますか？

A 館外の研究者にも中核を担ってもらい、積極的に共同研究を展開しています。研究機関であり大学共同利用機関である公的な組織としての生命線だと思っています。

14 ページへ



Q 国文学研究資料館の事業全体について教えてください。

A 主として、1 調査・アーカイブズ調査収集、2 資料利用、3 社会連携活動、4 国際連携の四つの事業に分けられます。

16～21 ページへ



Q 若手研究者の支援は考えていますか？

A 日本古典文学学術賞の運営や、国際日本文学研究集会の開催など、若手支援にも積極的に取り組んでいます。

22 ページへ



Q 大学院教育は？

A 総合研究大学院大学の基盤機関となって、日本文学研究コースを開設しています。各領域の教授陣、文献・史料の豊富さは、大きな特色となっています。

23 ページへ



データ駆動による課題解決型人文学の創成

—データ基盤の構築・活用による次世代型人文学研究の開拓—

文系唯一の大規模学術フロンティア促進事業*（文部科学省）として、2014年度から2023年度までの10か年で実施した「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」（歴史的典籍NW事業）の成果をさらに発展させる後継事業として、「データ駆動による課題解決型人文学の創成—データ基盤の構築・活用による次世代型人文学研究の開拓—」（国文研DDHプロジェクト）を、2024年度から2033年度までの10年計画で実施しています。

本事業では、国内外機関等との連携による更なる画像データの拡充、画像データのAI利活用等によるテキストデータ化、データ分析技術開発の推進など、日本文学を中心とするデータインフラを構築し、さまざまな課題意識に基づく国内外・異分野の研究者との協働による大規模データを活用した次世代型人文学研究を開拓することを目指しています。

本事業の計画概要

本事業の計画概要は以下のとおりです。

■ 研究基盤データベースのデータ拡充・高度化

画像データの集積の範囲を近代初頭(明治時代初頭)にまで拡張するとともに、機械可読の大規模テキストデータを形成します(→10～11ページ)。

・画像データの拡充

歴史的典籍NW事業を通して、30万点の日本語の歴史的典籍の全冊画像を作成し、国書データベース(→12ページ)において、web上で誰でも、いつでも、無料で利用可能なオープンデータとして提供しています。本事業においては、さらに15万点の全冊画像を作成して合計45万点の画像の集積を行います。

・テキストデータの作成

国書データベースで公開している30万点の歴史的典籍の画像データを元に、OCRにより、機械可読な形のテキストデータを作成します。これにより、オンラインでの検索・表示システムの提供や機械学習モデルの作成などに利用できるようになります。また、TEI (Text Encoding Initiative) ガイドラインによる最小限のマークアップを施したテキストの作成や、一部テキストに関しては研究者による校正や既存の翻刻資料を通じて、より信頼度の高いテキストを提供します。

■ 異分野融合によるデータ駆動型研究の推進

情報学、自然科学分野などとの協働によるデータ駆動型研究や基盤技術の高度化を以下の4つの研究計画により推進しています(→5ページ)。

- ・データインフラストラクチャの構築
- ・人文系データ分析技術の開発
- ・コンテンツ解析からの展開
- ・マテリアル分析・解析

*大規模学術フロンティア促進事業とは？

文部科学省が推進する、最先端の技術や知識を結集して人類未だの研究課題に挑み世界の学術研究を先導する画期的な成果を挙げる大型プロジェクトです。

異分野融合：4つの研究テーマ

大量の古典籍の電子化・テキスト化による一般への開放、及びデータの構造化・体系化と利活用を目指して、「データインフラストラクチャの構築」、「人文系データ分析技術の開発」、「コンテンツ解析からの展開」、「マテリアル分析・解析」の4つの研究領域において共同研究を推進します。

データインフラストラクチャの構築

本計画の基盤となるデータ駆動システムのハード面・ソフト面にわたる開発と運用計画の調整を行い、実際の運用を行います。

また、古典籍のOCR技術の高度化や、画像検索機能の開発などに関する共同研究を実施しています。

国書データベース

日本の古典籍の総合目録である「日本古典籍総合目録データベース」と「歴史的典籍NW事業」によって構築された「新日本古典籍総合データベース」を発展的に統合し、さらに、校正テキストデータの構築・公開や、タグ検索などの機能強化をめざすものです。(→12ページ)



人文系データ分析技術の開発

AI技術の活用による研究資料の抽出とその多分野への適応、テキスト分析・解析技術及び画像等の非テキストによる検索技術の開発、データ蓄積の国際標準化への対応などにより、人文系データをデータ駆動型に統合する方法と分析手法の開発を行います。



古典籍画像の機械可読型データへの整備

古典籍画像データから作成したテキストデータを扱いやすい形式に変換する共同研究を行うとともに、そのノウハウも公開しています。多様な人々がデータ作成を担い、研究資源が増すことで、異分野の研究者等にも人文情報が容易に利用できるようになります。

プロジェクトの目的

- ① 古典籍画像データからテキストデータを作成し、これらをTEI/XMLデータへと変換する。
- ② 研究活動を通じて、古典籍TEI/XMLデータ作成ノウハウも蓄積、公開する。



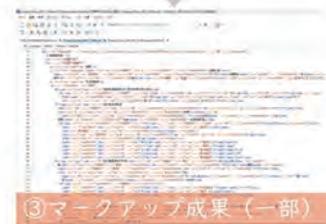
TEI/XMLの作成・公開

国文学研究者に限らず、国内外の古典籍所蔵機関および異分野の研究者コミュニティに発信し、もってデータ駆動型人文学のための研究資源の確立を目指す。

TEI/XMLマークアップの流れ



- ① 廣瀬本万葉集は、関西大学デジタルアーカイブのオープンデータを活用
- ② 翻刻作業における国文学研究者の監修
- ③ TEIマークアップにおけるDH研究者のアドバイスと協力



③ マークアップ成果 (一部)

引用：国文研DDHプロジェクトキックオフシンポジウム「AI×人文学—データ駆動による未来形成—」ポスター発表
「古典籍画像データを利用したTEI/XMLデータ作成—廣瀬本万葉集を中心に—」 菊池信彦 (国文学研究資料館) (2024.12.1)

コンテンツ解析からの展開

従来、人文科学分野で活用されてきたエビデンスデータを自然科学・社会科学にも活用できるデータに改変し、現代社会の直面する課題を解決する共同研究を行います。

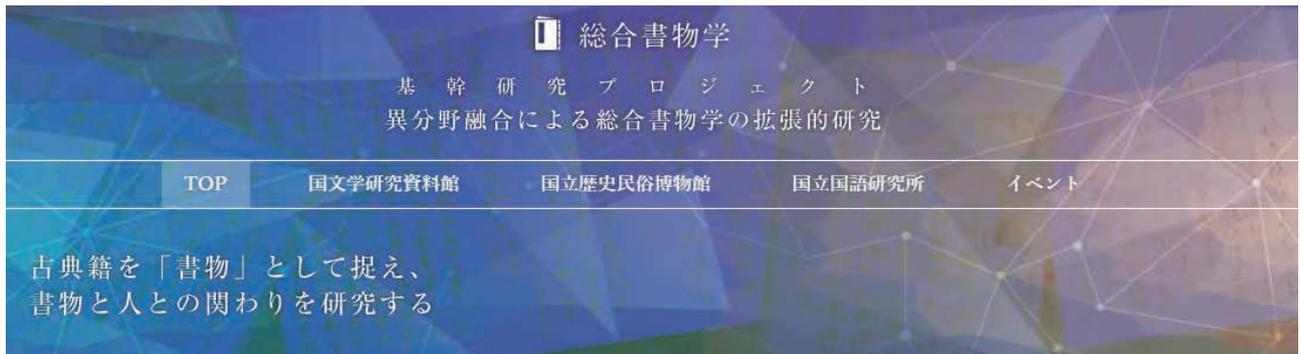


古代における赤気（オーロラ）、隕石、雷等の自然界に起こった多様な異変について、古典籍における記述をもとにした分析を進める共同研究「天変地異の文理融合研究」。国立極地研究所など大学等研究機関ほか、国立科学博物館、地域資料館、学会など幅広い分野・組織の研究者が参加。



大規模自然災害や気候変動に対して、古典籍・古記録・古文書等から歴史的な災害対応、適応の様相を明らかにし、将来への減災・気候変動対応に向けた異分野融合型研究を目指す「歴史資料・古典籍を活用した減災・気候変動研究」。茨城大学から環境経済学、地形学等の研究者が参加。

また、多様な人文学分野の拠点である人間文化研究機構内の各機関との協働により、機構のスケールメリットを活かし、大規模データを活用したさまざまな課題意識に基づく国内外研究者との異分野融合研究を実施しています。

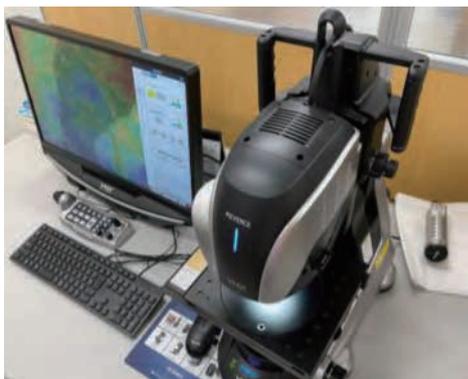


当館が主導機関となり、国立歴史民俗博物館・国立国語研究所や機構外の大学等研究機関とも連携して実施している広領域連携型基幹研究プロジェクト「異分野融合による総合書物学の拡張的研究」

マテリアル分析・解析

1000年の歴史を有する日本の書物には、記されたテキストの伝える情報とともに物質として伝えられた情報も蓄積されています。従来ほとんど行われてこなかったマテリアルとしての書物からの情報抽出及び分析・解析技術の確立を目指します。

また、2024年度にはマテリアル分析共同利用実験室(→8ページ)を設置し、研究機器を共同利用に供し研究の推進を支援しています。



高精細デジタルマイクロスコープによる草双紙料紙観察の方法

レンズ倍率20倍から1000倍程度まで上げながら、紙表面の様子から繊維の状態や夾雑物等を観察していく。



引用：2022年度日本近世文学会春季大会 研究発表「初期草双紙の料紙からみえるもの—高精細マイクロスコープによる観察を軸として—」松原哲子(国文学研究資料館)

マテリアル分析研究に使用する高精細デジタルマイクロスコープと、研究成果の一例

情報発信等

本計画では、国内外でのシンポジウムやワークショップ等による共同研究の成果発信や国書データベースの利活用に繋がる発信に積極的に取り組んでいます。併せて、一般市民や中高生に向けたアウトリーチ活動を展開し、研究成果を広く還元します。

また、「日本古典籍研究国際コンソーシアム(→20ページ)」の活動として、複数機関の学生・研究者・専門職員が一緒に研究・勉強するオンライン勉強会を開催するなど、国際交流を強化しています。

キックオフシンポジウム

本計画の始動を記念して、「AI×人文学ーデータ駆動による未来形成ー」を開催し、各界を代表する研究者によるパネルディスカッションを実施(2024年12月1日、一橋講堂/オンライン配信)。関連イベントとして、同会場ロビーにおいて、プロジェクトの共同研究者等によるポスターセッションを実施。

(後援：文部科学省/日本学術会議/情報・システム研究機構/ゲーテ大学フランクフルト・アム・マイン日本学研究所/国立情報学研究所/データサイエンス共同利用基盤施設/実践女子大学/奈良文化財研究所/ハイデルベルク大学日本学科/東京大学史料編纂所/国立国会図書館/ TOPPAN株式会社/文学通信/株式会社平凡社)



中高生向けSDGsイベント

共同研究「古典資料の継承意識の涵養手法に関する教育的実践研究」の一環として、紙漉きと近世期和本の顕微鏡観察を体験するワークショップを開催。

- ・静岡聖光学院中学校・高等学校(2024年7月26日)
- ・森村学園中等部・高等部(2024年12月17日)
- ・東京都立大泉高等学校・同附属中学校(2025年3月19日)



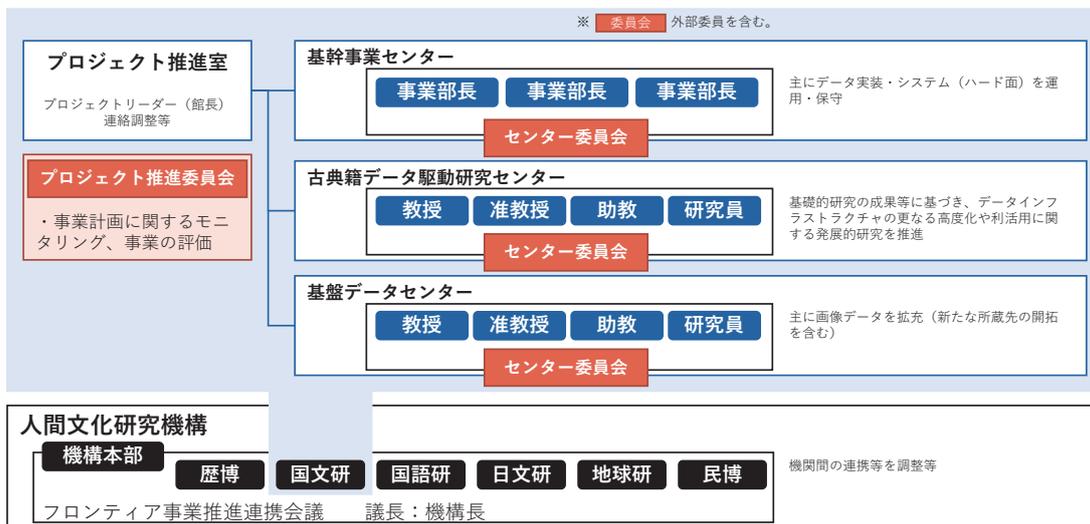
講義を受ける様子/小型顕微鏡による漉き返し紙を分析する参加者



実施体制

本計画は、「プロジェクト推進室」において本計画の統括、各部署の連絡調整及び機構本部との連携等を行い、「基幹事業センター」、「古典籍データ駆動研究センター」及び「基盤データセンター」がそれぞれの強みを活かしてプロジェクトを推進しています。

また、外部委員を含む委員会において、研究者コミュニティの意見をプロジェクトに反映する仕組みとしています。



古典籍データ駆動研究センター

「古典籍データ駆動研究センター」(略称「DDセンター」)は、加速する実体社会のデジタル化への対応やオープンサイエンスとデータ駆動型研究等の推進という新たな研究システムの構築などに取り組むため、人文学分野の研究者と情報学・自然科学分野の研究者との協働によって、他分野と協働し得る課題解決型の人文学研究の創出を目指して、2022年4月に当館に設置されました。

DDセンターでは、「研究基盤整備部門」及び「データ駆動型研究推進部門」の2つの部門を設置し、「データインフラストラクチャの構築」、「人文系データ分析技術の開発」、「コンテンツ解析からの展開」、「マテリアル分析・解析」の4つの研究分野を推進しています。

データインフラストラクチャの構築	人文系データ分析技術の開発
<ul style="list-style-type: none">・古典籍のテキストデータ化のための技術開発・国書データベースの高度化・メタデータ標準化 等	<ul style="list-style-type: none">・AIの活用による大規模データの分析技術開発・TEIによるデータの構造化 等
コンテンツ解析からの展開	マテリアル分析・解析
<ul style="list-style-type: none">・社会や他分野に貢献可能なコンテンツの抽出・総合書物学や典籍防災学等の研究を推進 等	<ul style="list-style-type: none">・マテリアルとしての書物の分析・解析技術を開発・マテリアルデータのメタデータ化

センターメンバーによる研究活動事例

● 若手・シニア研究者を交えた定期的なブリーフィング

若手研究者とシニア研究者、大学院生、技術職員、司書職員等を対象とし、外部の研究者を講師として招へいし、積極的なアドバイスやコメントを得る場を設置、定期的に関催(2024年度は4回)。



● 国内外の学会等における研究成果等の発信

絵入本ワークショップXIVプログラムにおいて、発表を行うとともにマテリアル分析のデモンストレーションを実施(韓国・蔚山大学、2024年12月21日・22日)。

第34回日本資料専門家欧州協会(EAJRS)年次大会において、AIを用いたOCR処理による古典籍画像データのテキストデータ化等について発表(ブルガリア・聖クリメント・オフリツキ・ソフィア大学、2024年9月11日~14日)。



マテリアル分析共同利用実験室

DDセンターではマテリアル分析を人文学のデータ駆動型研究の新たな柱の一つに位置付け、「マテリアル分析共同利用実験室」を開設し、古典籍等の試料を非破壊で分析できる微小部蛍光X線分析装置や高精細デジタルマイクロスコープなどの光学機器を整備して人文学研究者の共同利用に供します。提供対象を共同研究から一般の共同利用へ、分析対象も古典籍からその他の人文学試料へと順次拡大していく予定です。



上掲式(2025年3月)



微小部蛍光X線分析装置による古典籍の分析

共同研究

DDセンターでは、日本文学以外の分野の研究者が参画して、研究基盤を用いた異分野融合共同研究を実施しています。萌芽研究(将来的な発展が期待される萌芽的な研究)、共同研究(成果の具体化が期待される研究)及びNW事業発展型研究(歴史的典籍NW事業において実施した共同研究に基づき、発展的に実施する研究)の区分を設定して実施しており、さらに2025年度から国文研DDHプロジェクトの重要事項を研究テーマとする重点課題研究を新たに開始します。

<2024年度>

萌芽研究

- 生成AIを活用した歴史・国語の教育・研究実践手法の開発
- 歌人人物情報データの作成
- 東アジアの歴史的文献関連資料共有のためのデータインフラストラクチャの構築に関する準備研究
- AI技術を用いた大規模古典籍画像に対する新たな検索手法の研究
- 地理空間データの付与による『源氏物語』デジタルデータの拡張

共同研究

- 近世期資料のマテリアル分析に関する資料調査ならびに研究
- 大規模言語モデル等を利用した近代文芸テキストデータ解析法の探究
- 新古今和歌集の校訂本文データと現代語訳データの総合的研究
- 古典籍に対する科学的アプローチに関する総合的研究
- AI技術を用いた古典籍OCRテキストの解析・校正支援手法
- 古典資料の継承意識の涵養手法に関する教育的実践研究
- 古典籍画像データを利用したTEI/XMLデータ作成
- 異分野融合による総合書物学の拡張的研究(広領域連携型基幹研究プロジェクト)

NW事業発展型研究

- 「日本の人名データベース」(JBDB)に関する研究の国際的展開
- GISを用いた総合地域情報に関する国際発信方法に関する国際的發展研究
- 天変地異の文理融合研究
- 歴史資料・古典籍を活用した減災・気候変動研究
- 古典籍と自然アーカイブの対比による宇宙気候研究
- 「古典籍画像に基づくICT活用教育プログラムの開発」に関する後継研究
- 古典籍画像に基づくくずし字認識AIの改良およびICT活用教育ツールへの適用
- 国際共同研究によるオンライン注釈手法に関する実践的研究
- 非破壊による、見えない文字をよむ文理融合研究
- マテリアル分析機器に基づく古典資料調査に関する総合的研究
- 狩野派粉本を基軸とする画題の国際化のための基盤研究
- 典籍の全文テキスト化に関する発展的研究
- 画像特徴を用いた難読古典籍画像に対する内容解析と提示方法の開発
- 日本の古典文化を融合したマルチモーダル基盤モデルのためのデータインフラストラクチャの構築
- 国文研所蔵字形・字体資料の利活用性向上に関する研究
- 日本におけるフードテックの萌芽を探るー近世日本の料理書分析を手がかりにー
- 大英図書館所蔵資料の画像作成及びカタログギングにおけるアルゴリズム改良に関する発展的研究
- 石水博物館所蔵資料の画像作成及びカタログギングにおけるアルゴリズム改良に関する発展的研究

基盤データセンター

当館における画像・書誌作成

当館では、所蔵資料のほかに、国内外の機関等が所蔵する資料について、様々な方法でデジタル画像データを作成しています。作成した画像には書誌データを付与して国書データベース(→12ページ)で公開しています。

●画像

・業者撮影

専門業者を所蔵者のもとへ派遣して撮影を行うものです。

箱などの立体物を伴う場合や大型資料・卷子・掛け軸等、内製では対応できない資料も撮影することができます。

・内製

当館に所蔵資料を借用して、当館スタッフが設置スキャナにて撮影を行う**当館内製**と、所蔵者にスキャナを貸し出して現地スタッフで撮影を行う**機関内製**との2種類があります。

冊子体の撮影を中心とし、A2サイズ以内(機関内製ではA3サイズ以内)の一枚もの等も撮影しています。

使用するスキャナは、資料に対して過剰な重量をかけないようにガラス押さえが調整できるものを採用しており、作成した画像が十分に判読できつつ資料の破損が起らないよう留意しています。

内製では、カラープロファイルを設定するなどして、原資料の再現性を担保しつつ、業者撮影よりも比較的安価に画像を作成できます。

・その他

原本からの撮影が難しいがマイクロフィルムで撮影済みの場合には、フィルムからの**デジタルコンバート**を行っています。

海外の機関などの場合には、所蔵者自身が持つ撮影スタジオに画像を発注したり、所蔵者自身が撮影業者に撮影を発注し、その費用を当館が負担するなどの方法もとっています。

その他、所蔵者が撮影済みの資料画像がある場合そのデータを提供いただいたり、**IIIF連携**を行ったりなどして、国書データベースでより多くの画像を公開するよう努めています。

●書誌

・書誌作成

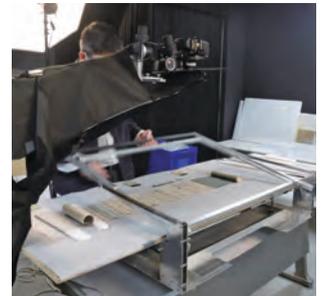
このように様々な方法で作成された画像に対し、くずし字が解読できる当館スタッフにより、データベースで検索・利用するために必要な「書名」「著者名」「所蔵者」などの様々な書誌データが整備されます。

その書誌データと画像とをリンクさせて国書データベース(→12ページ)で公開しています。

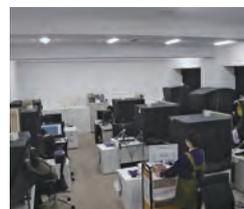
・書誌の標準化

「メタデータ流通ガイドライン(古典籍編)」や日本古典籍のデジタルアーカイブに対応した「JPCOARスキーマ2.0」の編纂に関わるなど、国立国会図書館・オープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR)とともに日本古典籍に関する書誌の標準化に尽力しています。

さらに、メタデータの流通を推進するため、国書データベースの書誌データを汎用的なスキーマに変換して出力する仕組みについて検討を開始しています。



業者撮影の様子



撮影室(当館5F)の様子



職員による当館内製の様子



カラープロファイルが設定されていない場合



適切なカラープロファイルを設定した場合



書誌作成画面の例

機械可読型全文テキストデータの整備

国文研DDHプロジェクト(→4ページ)では、令和6(2024)年度から令和15(2033)年度までの10年間に、撮影・収集した古典籍のデジタル画像をもとに、テキストデータ作成を行います。大量のデータ作成を効率的に行うため、試験的に商用翻刻システムも利用しています。



①OCR処理によるテキストデータ
270,000点(目標)



②人手等による校正を経たテキストデータ
3,000点(目標)

作成したテキストデータの一部は、校訂本文・釈文・現代語訳・多言語訳等の作成や、標準的なメタデータの付与などにより活用できるよう整備し、公開する予定です。

海外との連携～国際的な広がり～

国書データベースでの海外所在古典籍の画像取載やデジタルアーカイブとの連携、コーニツキー版欧州所在日本古書総合目録の情報搭載など、これまでの取組を継承し、今後も海外所在資料情報の充実を積極的に進めていきます。

2024年には、北米日本研究資料調整協議会(NCC)と共に、北米に所在する日本語の古典籍資料のデジタル化に関する取り組みとして“NIJL-NCC/CDDP Digitization Grant Program”を開始しました。採択機関でデジタル化された古典籍画像は、国書データベース上で公開していきます。

今後は、北米での展開に加え、日本資料専門家欧州協会(EAJRS)と協同して、欧州における日本古典籍利活用の振興も進めていきます。



NIJL-NCC/CDDP Digitization Grant Program (NCC)
<https://guides.nccjapan.org/cddp/nijl-ncc/digitalgrant>

また、データの充実のみならず、北米や欧州の日本関係司書との意見交換や、EAJRS年次大会における発表などの人的交流を通じて、国書データベースの国際化と利活用促進に取り組んでいます。



EAJRS2024における発表



和古書を介した交流(オーバリン大学)



NCC Open Meetingにおける発表

国書データベース

「国書データベース」は、国内外約700の機関や個人が所蔵する書誌約95万点、デジタル画像約30万点を無料で公開する世界最大級の日本古典籍データベースです。
2024年には「近代書誌・近代画像データベース」を統合するなど、発展を続けています。



<https://kokusho.nijl.ac.jp>

国書データベースの特徴

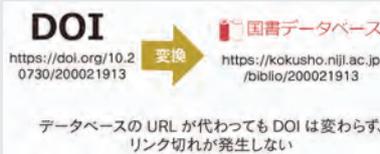
Point1 探しやすい

タイトルやキーワード検索のほか、画像に付けられたタグ、本文テキストなど、多彩な検索ができます。



Point2 引用しやすい

各資料には、国際的識別子である DOI（デジタルオブジェクト識別子）を付与しており、永続的なアクセスを保証しています。引用の際にも便利です。



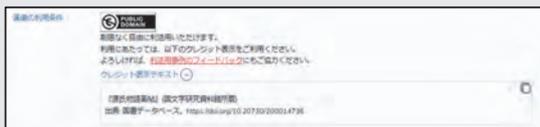
データベースの URL が代わっても DOI は変わらず、リンク切れが発生しない

Point3 活用しやすい

古典籍の画像は国際規格である IIIF（トリプルアイエフ、International Image Interoperability Framework）に対応したビューアで表示され、異なるデジタルアーカイブ間での画像共有や再利用が容易です。



+さらに活用しやすく！



各画像には利用条件を表示しており、これに従うことで、安全な利用が行えます。当館所蔵資料をはじめ「パブリックドメイン」で公開している画像は、商用・非商用や改変の有無、利用目的を問わず、資料掲載等のデータ利用を自由に行うことができます。



詳細は、パンフレットをご参照下さい。

https://kokusho.nijl.ac.jp/page/kokusho-pamphlet_202309_web_JP.pdf



2024年度撮影実施機関

東北大学、福島大学、筑波大学、宮内庁書陵部、静嘉堂文庫、世田谷文学館、専修大学、東京家政学院大学、東京書籍株式会社附設教科書図書館東書文庫、東京大学、東洋大学、二松学舎大学、日本芸術文化振興会、野上記念法政大学能楽研究所、武者小路実篤記念館、早稲田大学、富山市立図書館、加賀市立中央図書館、小浜市立図書館、福井市立図書館、山梨県立図書館、藤村記念館、浜松市立賀茂真淵記念館、豊田中央図書館、名古屋大学、石水博物館、国際日本文化研究センター、京都市歴史資料館、京都大学、同志社大学、大阪樟蔭女子大学、大阪大学、相愛大学、姫路文学館、春日大社、鳥取県立図書館、岡山大学、正宗文庫、安田女子大学、山口大学、総本山善通寺、大洲市立図書館、九州大学、祐徳稲荷神社、中津市歴史博物館、廣瀬資料館、かごしま近代文学館、鹿児島大学、オーバリン大学、カンザス大学
※2024年度撮影分は2025年度中に画像・書誌を公開予定。

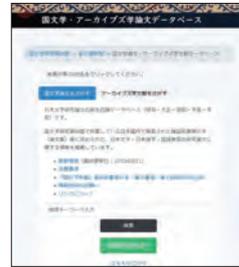
公開データベース

日本文学及びその関連領域研究のため、以下のデータベースを当館ウェブサイトで公開しています。

●国文学・アーカイブズ学論文データベース

<https://ronbun.nijl.ac.jp>

1888年(明治21)から現在に至る日本文学関係論文と、アーカイブズ学に関する国内研究文献を集約して提供しています。



●収蔵歴史アーカイブズデータベース

<https://archives.nijl.ac.jp>

文部省史料館(1951年開館)とそれを継承した国立史料館、当館によって収集・保管されてきた近世・近現代の古文書や記録類、モノ資料からなるアーカイブズを提供しています。



●在外日本古典籍所蔵機関ディレクトリ

<https://base1.nijl.ac.jp/~overseas/>

日本の古典籍を所蔵する日本国外の機関の連絡先、閲覧の可否等の情報を英語(一部日本語も有)で提供しています。



●図書・雑誌所蔵目録(OPAC)

<https://opac.nijl.ac.jp>

当館所蔵の明治期以降の図書、雑誌(逐次刊行物)の目録です。



●学術情報リポジトリ

<https://kokubunken.repo.nii.ac.jp>

国立情報学研究所(NII)のJAIRO Cloudサービスを利用し、当館の研究成果等を公開しています。



共同研究

50余年にわたる調査収集事業と、大規模学術フロンティア促進事業「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」(2014～2023年度)、「データ駆動による課題解決型人文学の創成プロジェクト」(2024～2033年度)等で集積してきた、日本文学とその関連領域の各種資料(古典籍・デジタルデータ・マイクロフィルム・紙焼写真など)を主たる研究資源として、多様な日本文学研究のいっそうの推進と発展のために、以下の共同研究を実施しています。

共同研究は大学共同利用機関の根幹をなす最も重要なものであり、公募要領の策定・審議採択・進捗管理を、共同研究委員会(外部委員7名および館内教員6名の都合13名によって構成)が担当しています。

法人第4期(2022～2027年度)には新たに、「特定研究」のもとに3種(「近代」「地域資料」「国際」)計7件の共同研究を立てるとともに、「課題」として当館が所蔵する各種コレクションの基礎的研究を計画的に配置するなど、これまで以上の充実を図っています。

公募/非公募を問わず、いずれの共同研究においても、研究組織における若手研究者比率に留意し、共同研究を展開してゆく中で次世代の研究者を育成することにも配慮します。また、館外者が研究代表者を務める共同研究には必ず「館内担当者」を充て、共同研究がスムーズに進行するようきめ細かくサポートしています。

*公募時期は毎年秋、採択決定は毎年末です。

基幹研究

「基幹研究」は、日本文学とその関連領域の基礎基盤をなす共同研究です。館内教員が研究代表者を務めています。

- **国文学研究資料館所蔵貴重書の基礎的研究** (2022～2027年度)
研究代表者：齋藤 真麻理(さいとう・まおり) 当館教授
中西 智子(なかにし・さとこ) 当館教授
- **アーカイブズ社会の基盤創発に関する基礎的研究** (2022～2027年度)
研究代表者：太田 尚宏(おおた・なおひろ) 当館准教授
- **十九世紀地域文化拠点の総合的研究—廣瀬家の文事とネットワーク—** (2024～2027年度)
研究代表者：入口 敦志(いりぐち・あつし) 当館副館長

特定研究

「特定研究」は、個別特定の研究課題に取り組む共同研究です。

一般

当館が集積してきた各種資料(古典籍・デジタルデータ・マイクロフィルム・紙焼写真など)を主たる研究資源として推進する公募型共同研究です。

- **万葉集平仮名傍訓本の総合的研究** (2023～2025年度)
研究代表者：新沢 典子(しんざわ・のりこ) 慶應義塾大学教授
- **一関藩田村家を中心とした近世前期公武文化圏に関する地域連携的研究** (2024～2026年度)
研究代表者：大山 和哉(おおやま・かずや) 同志社大学准教授
- **短冊資料の研究資源化に向けたオープンデータ構築** (2025～2027年度)
研究代表者：岡田 貴憲(おかだ・たかのり) 九州大学准教授

課題

当館が所蔵する特定のコレクション(寄託資料を含む)に関して、個別研究を行う研究分担者を公募し、個人々々がその交流を通してさまざまな知見を獲得するとともに、関係文献の解題作成と展示公開を研究成果の一つとする共同研究です。

*研究代表者は初回の共同研究会において互選により決定。

- **国文学研究資料館碧洋臼田甚五郎文庫の基礎的研究** (2023～2025年度)
研究代表者：久保木 秀夫(くぼき・ひでお) 日本大学教授
- **国文学研究資料館北野克旧蔵書画の基礎的研究** (2024～2026年度)
研究代表者：合山 林太郎(ごうやま・りんたろう) 慶應義塾大学教授
- **国文学研究資料館鈴木圭一文庫の基礎的研究** (2025～2027年度)
研究代表者：長田 和也(ながた・かずや) 公益財団法人五島美術館大東急記念文庫学芸員

近代

日本近代文学に関する共同研究です。館内教員が研究代表者を務めています。

- **近代文学における改稿と思想の相関についての文献学的研究** (2025～2027年度)
研究代表者：多田 蔵人(ただ・くらひと) 当館准教授

地域資料

全国にわたる当館の調査収集先の中から5か所を選定し、当該文庫に精通した研究代表者が、調査収集事業を担ってきた各地域の地域資料専門部会委員(旧国文学文献資料調査員)を中心とする研究分担者を組織して行う共同研究です。研究資源の重要性を各地域でも共有していただくために、毎年度「〇〇文庫セミナー」を開催することを要件としています。

- **京都女子大学蘆庵文庫の研究** (2025～2027年度)
研究代表者：大谷 俊太(おおたに・しゅんた) 京都女子大学教授
- **春日大社の研究** (2025～2027年度)
研究代表者：川崎 佐知子(かわさき・さちこ) 立命館大学教授
- **手銭家蔵書についての研究** (2025～2027年度)
研究代表者：田中 則雄(たなか・のりお) 島根大学教授
- **正宗文庫の総合的研究** (2025～2027年度)
研究代表者：川崎 剛志(かわさき・つよし) 就実大学教授
- **肥前松平文庫の研究** (2025～2027年度)
研究代表者：鈴木 元(すずき・はじめ) 熊本県立大学教授

国際

在外古典籍の調査研究とともに、それに基づいた国際共同研究を進めます。館内教員が研究代表者を務めています。

*研究組織における在外研究者比率にも留意。

- **カリフォルニア大学バークレー校所蔵古典籍の調査研究** (2025～2027年度)
研究代表者：神作 研一(かんさく・けんいち) 当館教授

基幹事業センター

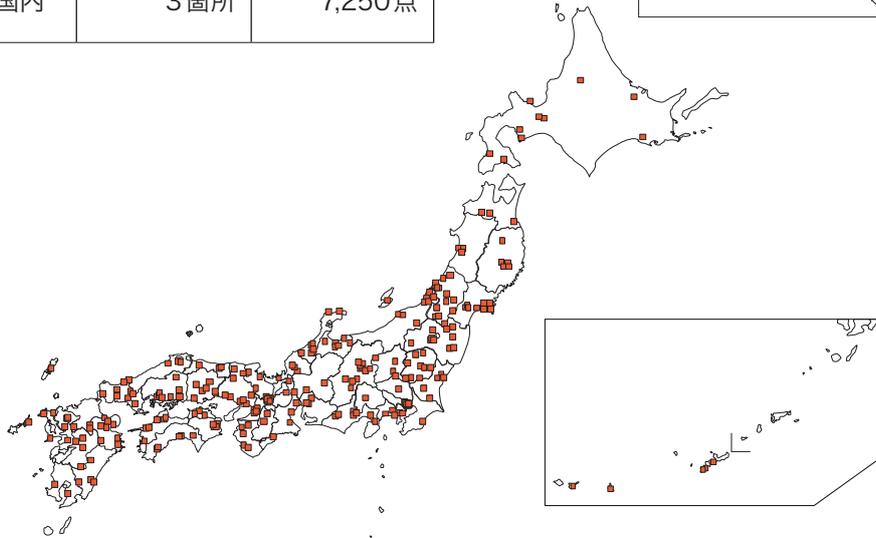
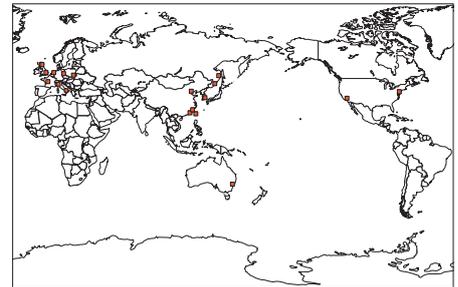
国内外に所蔵されている日本文学及び関連資料の専門的な調査研究と、原本による収集を行い、得られた所在・書誌情報を整理・保存し、日本文学及び関連分野の研究基盤を整備しています。また、これらをさまざまな方法で国内外の利用者に提供するとともに、展示・講演会等を通じて社会への還元を行っています。

1 調査・アーカイブズ調査収集

全国の大学等に所属する研究者と連携し、日本文学及び関連する原典資料を所蔵する機関に赴いて、書誌的事項を中心とした調査・研究を行っています。記録された調査カードは、画像作成や各種目録作成などに活用され、蓄積されたカードの情報は電子化を行い、学術リポジトリで公開しています。また、アーカイブズ情報資源化に向け、日本の近世・近代史料について、全国の史料の調査・収集を行っています。

これまでの調査・アーカイブズ収集件数

調査	国内	1,038 箇所	425,789 点
	海外	67 箇所	16,367 点
	計	1,105 箇所	442,156 点
アーカイブズ調査収集	国内	3 箇所	7,250 点



■ 2024年度調査箇所一覧

東北地区

弘前市立弘前図書館

会津若松市立会津図書館

関東地区

宮内庁書陵部

国立国語研究所

最明寺

武者小路実篤記念館

星槎大学真山青果コレクション

中部地区

舟津神社

近畿地区

春日大社

瑞光寺

中国・四国地区

鳥取県立博物館

手銭美術館

正宗文庫

光市文化センター

宇和島伊達文化保存会

大洲市立図書館

笠岡市立図書館

九州・沖縄地区

諏訪神社(諏訪文庫)

祐徳稲荷神社

■ 2024年度収集箇所一覧

アーカイブズ

江川文庫

真田宝物館

※所蔵者名敬称略

2 資料利用

図書館では、閲覧・文献複写サービスを行っています。遠隔地の利用者でも、図書館間の相互利用制度により、資料の複写等のサービスが利用できます。大学等に所属していない方は、直接郵送・FAX・メールにより複写申込をすることができます。また、文書・FAX・メール等による参考質問も受け付けています。



図 書 館

利用案内

利用時間	開館時間	平日	9:30～18:00
		土曜	9:30～17:00
	書庫資料 閲覧受付	平日	9:30～17:00
		土曜	9:30～16:00
	複写受付		9:30～16:00
休 館 日		<ul style="list-style-type: none"> ・日曜日、祝日・振替休日 ・年末年始(12月27日から1月5日) ・蔵書点検期間(2月) ・第4水曜日 ・夏季一斉休業日 ※その他、都合により臨時に休館する場合があります。掲示、当館ウェブサイトを確認してください。	
サービス	閱 覧	マイクロ資料、和古書(写本・版本)、史料、活字本・影印本、全国の地方史誌、逐次刊行物 ※史料、貴重書・特別コレクション・寄託資料の閲覧には事前予約が必要。土曜日は閲覧不可。	
	複 写	電子複写(リーダープリンターによる複写も含む)・ポジフィルム(ただし史料は除く)	
	撮 影	史料等、電子複写できない資料	
	貸 出	紙焼き写真本の一斉貸しサービス(一部を除く)	
	展 示 貸 出	図書館、文書館、博物館等への貸出	
	参 考 調 査	所蔵調査・参考質問の受付、回答	
	相 互 協 力	図書館間の相互協力(ILL)による文献複写、資料貸出	
問合せ	電 話	利用について	050-5533-2926 学術資料係
		相互利用(ILL)	050-5533-2926 //
		歴史資料について	050-5533-2930 //
		資料の掲載について	050-5533-2930 //
	F A X	042-526-8607	
E-mail	etsuran@nijl.ac.jp		

所蔵資料

資料種別		点数等	冊数等
収集マイクロ資料	マイクロフィルム	日本文学	195,097点
		歴史	202件
	紙焼写真本	日本文学	—
		歴史	—
図書	和古書	21,505点	68,796冊
	活字本・影印本等	120,583件	207,486冊
	逐次刊行物	9,655誌	—
	マイクロフィッシュ	16,667点	57,358枚
史料		512件	約520,000点
寄託	日本文学	13件	9,540冊
	歴史	17件	6,847点

代表的な所蔵資料

日本文学関係資料

【貴重書】

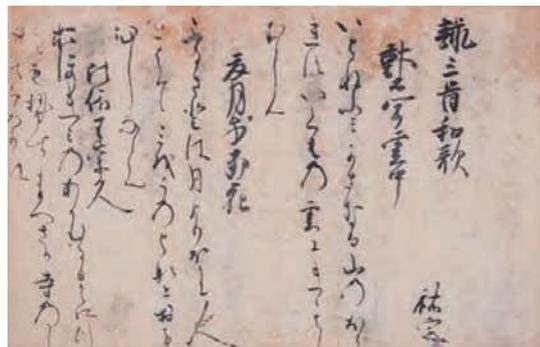
春日懐紙(重要文化財)、天和2年荒砥屋版『好色一代男』、組合せ絵入り古活字版『曾我物語』、鎌倉期写『新古今和歌集』、奈良絵本『うつほ物語』、『新古今和歌集撰歌草稿』、鎌倉期写『源氏物語』16帖ほか227点

【特別コレクション】

西下経一旧蔵の古今和歌集関係等のコレクション(初雁文庫)、作家中村真一郎旧蔵の江戸明治の漢詩文集のコレクション(日本漢詩文集コレクション)、『徒然草』ほかのコレクション(高乗勲文庫)、『新古今和歌集』を中心としたコレクション(懐風弄月文庫)、田安德川家伝来の日記・記録、有職故実、文学、芸術関係ほかの典籍類(田安德川家資料(田藩文庫ほか))、明治期の政治家鵜飼郁次郎の収集による書物及び文書・記録類(鵜飼文庫)、重要文化財の山鹿素行著述稿本を含む典籍類(山鹿文庫)、『伊勢物語』とその関連書のコレクション(鉄心斎文庫)ほか27件

【寄託資料】

金子元臣旧蔵書6点、坂田穩好氏古筆切コレクション156点、増田コレクション6,690枚50箱ほか11件



春日懐紙(当館所蔵)



書庫

歴史関係資料

所蔵史料は近世・近代を中心に52万点に及び、地域的にはほとんどの都道府県を網羅しています。

近世史料には『尾張国名古屋元材木町犬山屋神戸家文書』『信濃国高井郡東江部村山田庄左衛門家文書』等の町方・村方文書が多数を占めますが、『信濃国松代真田家文書』『阿波国徳島蜂須賀文書』『山城国淀稲葉家文書』等の武家文書、『山城国京都三条西家文書』等の公家文書や『山城国葛野郡嵯峨天龍寺塔頭臨川寺文書』等の寺社文書があります。

近代史料には『愛知県庁文書』『岡山県・広島県・鳥取県下市町村役場文書』等の県庁文書、戸長役場、村役場文書があります。

3 社会連携活動

研究成果を広く社会に還元するため、展示、講演会、シンポジウム、セミナー等、さまざまなイベントを開催しています。

展示

資料の調査研究や共同研究などで出された成果をもとに、1階に設置されている展示室にて開催しています。

2025年度展示予定

通常展示「書物で見る 日本古典文学史」

2025年1月23日(木)～4月18日(金)

通常展示「和書のさまざま」 2025年5月9日(金)～8月5日(火)

企画展示「碧洋白田甚五郎のまなざし—和歌・物語・歌謡」

10月1日(水)～11月28日(金)



展示室

通常展示「書物で見る 日本古典文学史」 2026年1月23日(金)～3月19日(木)

特設コーナー

展示開催期間中、展示室の一部のスペースに、特設コーナーを設け、当館所蔵の作品を展示しています。

<https://www.nijl.ac.jp/koten/webtenji>

電子展示室



電子展示室「書物で見る 日本古典文学史」、「和書のさまざま」

講演会等

(1) アーカイブズ・カレッジ

記録史料の保存と利用サービス等の業務を担う専門職員の養成のため、長期コースと短期コースを開催しています。

長期コースは、当館において7月22日(火)～8月8日(金)、8月18日(月)～9月5日(金)の計6週間、短期コースは高岡市生涯学習センターにおいて11月10日(月)～11月15日(土)に開催を予定しています。



2024年度 アーカイブズ・カレッジ短期コース

(2) 日本古典籍講習会

国内外の日本の古典籍を扱っている図書館や文庫の司書を対象とし、古典籍の基礎知識・取り扱い等に関する講習会を国立国会図書館との共催で開催しています。

2025年度は7月15日(火)～18日(金)の4日間の開催を予定しています。



2023年度 日本古典籍講習会

多摩学術文化プラットフォーム「ぷらっとこくぶんけん」

当館では、多摩信用金庫と協定を締結し、多摩地域における学術・文化の発展に関する事業を継続的に実施するために、当館を中心に企業、自治体、大学等各種団体で構成するプラットフォームとして、2018年度に多摩学術文化プラットフォーム「ぷらっとこくぶんけん」を設立しました。

「ぷらっとこくぶんけん」の事業として、多摩地域の学術・文化に関する講座、講演会の開催、所蔵資料、データベース等を活用した各団体との連携協力、産学連携の推進を実施していきます。

【お問い合わせ】 ぷらっとこくぶんけん担当 E-mail: platform@nijl.ac.jp

ないじえる芸術共創ラボ —アートと翻訳による日本文学探索イニシアティブ—

当館では2017年10月より、「ないじえる芸術共創ラボ —アートと翻訳による日本文学探索イニシアティブ」を実施しています。本事業は、当館に所蔵されている豊富な古典籍に、アーティストや、日本語を母国語としない翻訳家に触れていただき、研究者との創作ワークショップを通して、新たな文化芸術的価値を共創しようというものです。



トークイベント&ワークショップ
「源氏とあそぶ。源氏をまとう。」

ないじえる芸術共創ラボ
<https://www.nijl.ac.jp/pages/nijl>



4 国際交流

日本の文学は世界中で研究されています。多様な研究の視野と手法を共有して日本の文学を見つめることは、日本文学研究の大切な課題です。このような認識のもとに、当館では国際連携部を設置し、国際交流活動の活性化を図るとともに、国内外における研究集会やシンポジウム、日本古典籍を研究資源としたセミナーを開催するなど、積極的な活動を行っています。

また複数の機関に限られた資源を共有し、相互の長所・短所を補完できる場として、日本古典籍研究に特化した「日本古典籍研究国際コンソーシアム(Global Consortium for Japanese Textual Scholarship)」を、2020年11月1日付けで国内外の参加機関と共に任意団体として設立しました。事務局は当館が担当しています。参加機関数は、2025年3月末現在で83機関(国内41機関、国外42機関)です。<https://kotenseki.org/>

学術交流協定の締結

日本文学研究の国際的な拠点として、海外の研究機関及び研究者との多様な学術交流事業を積極的に進めています。特に海外機関との学術交流協定を締結することにより、安定的かつ継続的な研究交流が実現できるように努めています。

交流の内容としては、研究者の招聘・派遣、国際研究集会の開催を中心に、共同調査、共同研究の実施、大学院生等の短期研修受入についても構想しています。

現在、以下の海外機関と学術交流協定を締結しています。

- コレージュ・ド・フランス日本学高等研究所(フランス共和国)
- ヴェネツィア大学「カ・フォスカリ」アジア・地中海アフリカ研究学科(イタリア共和国)
- ナポリ大学「オリエンターレ」(イタリア共和国)
- サピエンツァローマ大学イタリア東洋研究学科(イタリア共和国)
- フィレンツェ大学教育・語学・国際文化・文学・心理学部(イタリア共和国)
- 北京外国語大学北京日本学研究センター(中華人民共和国)
- ライデン大学人文学部(オランダ王国)
- プリティッシュ・コロンビア大学文学部アジア研究学科(カナダ)
- コロンビア大学東アジア言語文化学部(アメリカ合衆国)
- 高麗大学校グローバル日本研究院(大韓民国)
- カリフォルニア大学バークレー校C.V.スター東アジア図書館(アメリカ合衆国)
- ベルリン国立図書館(ドイツ連邦共和国)
- バチカン図書館(バチカン市国)
- ハワイ大学マノア校東アジア言語文学学科(アメリカ合衆国)
- ハイデルベルク大学日本学科(ドイツ連邦共和国)
- ゲーテ大学フランクフルト・アム・マイン言語学・文化学・芸術学部(ドイツ連邦共和国)
- 大英図書館理事会(イギリス)
- スミソニアン協会(フリーア美術館、アーサー・M・サックラー・ギャラリー)(アメリカ合衆国)
- アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター(Inter-University Center for Japanese Language Studies)
- 檀国大学校東アジア人文融複合研究所(大韓民国)
- カンザス大学(アメリカ合衆国)
- 北米日本研究資料調整協議会(北米)

海外研究者との交流(外国人研究員・外来研究員)

日本文学研究の国際化を促進するために、海外において第一線で活躍する日本文学及びその周辺領域の研究者を外来研究員等として受け入れ、学術資料の利用及び人材交流の場として当館を提供しています。

国際日本文学研究集会

本集会は日本文学研究の発展を目的とし、日本文学の次世代研究者の育成と、国内外の日本文学研究者の交流を深めるため、毎年5月上旬に開催しています。

第48回は、対面とオンラインのハイブリッド形式にて開催します。

日程：2025年5月10日(土)～5月11日(日)

会場：当館大会議室及び

オンライン(Zoom ミーティング及び YouTube ライブ配信予定)



第48回 国際日本文学研究集会ポスター

文献資料ワークショップ

アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター(IUC)と共催で、次世代研究者を対象に、毎年2～3回、原則対面で開催しています。日本古典籍を資源とする研究展開の支援を主たる目的とし、古典籍の取り扱い方の概説、一次資料の調査・利用方法の説明、当館のデータベースやその他の資源の活用方法等について、実践的なガイダンスと有益な情報が共有される場を設けています。

第11回 2024年11月13日(水) 当館オリエンテーション室及び
オンライン

第12回 2025年2月21日(金) 当館オリエンテーション室及び
オンライン



第11回 文献資料ワークショップチラシ

日本古典籍セミナー

日本文化の礎である古典籍について、海外の研究者や研究機関等と連携し、書誌学や書物文化を中心としたセミナーを毎年度開催しています。

第12回 2024年3月30日(土) オンライン開催
(北京外国語大学北京日本学研究中心との共催)

第13回 2025年3月1日(土) オンライン開催
(北京外国語大学北京日本学研究中心との共催)



第13回 日本古典籍セミナー チラシ

若手研究者支援

■ 特別共同利用研究員制度

国公立大学の要請に応じ、大学院における教育に協力するため、1979年度から大学院教育協力制度を発足させ、大学院生の受入れを開始し、1998年度からは特別共同利用研究員として受入れの拡充を図りました。

日本国内の国公立大学大学院の博士課程又は修士課程に在籍し、日本文学、日本史学及び関連領域の分野を専攻する者を「特別共同利用研究員」として受入れ、必要な研究指導を行っています。受入人員は10名程度とし、受入期間は、原則として各年4月から翌年3月までの1年間です。

年度	2020	2021	2022	2023	2024	2025
受入人数	6人	4人	6人	4人	2人	4人



■ 若手研究者向けイベント

■ 国際日本文学研究集会 (2024年度実績)

2024年5月11日(土)～5月12日(日)

概要：対面もしくはオンラインによる研究発表（口頭発表）
 インフォメーション・セッション（ポスター発表）
 第1～第4セッション14名（うち若手研究者13名）
 ポスター発表6名（うち若手研究者5名）

参加者：175名（2日間延べ）

■ 文献資料ワークショップ (2024年度実績)

2024年11月13日、2025年2月21日の計2回、当館オリエンテーション室及び一部、オンライン上で開催。

参加者数：延べ113名、主な参加者在住国：日本、アメリカ、中国、イタリア

■ 日本古典籍講習会 (2024年度実績)

若手研究者を対象とし、日本古典籍書誌学の初歩的知識の修得を目的に研修を行っています。なお、2024年度の研修プログラムは第22回日本古典籍講習会の第1日と第2日をもって実施しました。

■ 日本古典文学学術賞(国文学研究資料館賛助会主催)

「日本古典文学学術賞」は、財団法人日本古典文学会が主催していた「日本古典文学会賞」を継承し、若手日本古典文学研究者の奨励と援助を目的として、国文学研究資料館賛助会に設置されました。

受賞対象者は、対象となる業績の公表時に40歳未満である研究者です(3名以内)。

第17回「日本古典文学学術賞」につきましては、2023年1月～12月までの業績(著書)を対象とし、選考委員会における選考の結果、1名の受賞者が決定しました。



大学院教育

■ 総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻 日本文学研究コース

日本文学研究コースは、当館を基盤機関とし、日本文学の新たな発展を担う人材を養成します。具体的には、文化資源のうち文献を主とした一次資料を研究対象とし、専門的な調査技術と総合的な分析力・知識・技能等の修得を目指します。論理的な思考能力や文章表現力、独創的かつ学際的な視点を育むとともに、周辺領域の課題にも取り組み、国内外で活躍できる広い視野を持つ研究者を育成します。

本コースは、博士後期課程のみから成り、コースに所属する学生は当館において学修・研究活動を行います。

● 在籍学生数 2025年4月1日現在

入学定員	1年次	2年次	3年次	合計
2名程度	1	1	5	7

● 直近5年間の年度別学位取得者数 ※論文博士を含む

2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
2	3	2	0	2

● 修了生の進路

青山学院大学ヒューマンイノベーション研究センター、金沢大学、慶應義塾大学、高麗大学、国文学研究資料館、四川外国語大学、湘北短期大学、都留文科大学、東京家政大学附属女子高等学校、独立行政法人日本学術振興会、兵庫教育大学、盛岡大学、早稲田大学、株式会社 創育 等

■ 日本文学研究コースの特徴

● 複数指導体制

17名の教員が広範な教育研究分野から学生をサポートしています。学生の研究課題に応じた指導体制を築くため、学生1人につき主任指導教員1名、副指導教員2名を定め、多角的な観点からきめ細かい指導を行っています。

● 充実した教育研究環境

当館の膨大な資料を活用して研究を行うことができます。また、院生室、講義室、院生用の図書室、談話室などコースの学生のための施設が充実しています。

● 経済的支援

国内外の現地調査、学会発表・聴講などの研究活動の旅費等の支援やリサーチ・アシスタント(RA)への積極的な雇用など、経済的な支援が充実しており、奨学金などと組み合わせることにより研究に専念することができます。

また、館内での資料複写が無料です(上限あり)。希望する図書の購入と院生図書室への配架も行っています。



*組織改組に伴い、2023年4月から「文化科学研究科日本文学研究専攻」から「先端学術院日本文学研究コース」に変わりました。



研究基礎論の講義風景

国文学研究資料館について

国文学研究資料館のめざすもの

当館は、国内各地の日本文学とその関連資料を大規模に集積し、日本文学をはじめとするさまざまな分野の研究者の利用に供するとともに、それらに基づく先進的な共同研究を推進する日本文学の基盤的な総合研究機関です。創設以来50年以上にわたって培ってきた日本の古典籍に関する資料研究の蓄積を活かし、国内外の研究機関・研究者と連携し、日本の古典籍を豊かな知的資源として活用する、分野を横断した研究の創出に取り組みます。

沿革

- 1966年12月 日本学術会議が「国語・国文学研究資料センター(仮称)」の設置を政府に勧告
- 1970年 9月 学術審議会が「国文学研究資料センター(仮称)」の緊急設置を文部大臣に報告
- 1971年 4月 文部省に、国文学研究資料の施設の整備に関する調査等の経費計上
- 1972年 5月 国文学研究資料館創設(管理部、文献資料部、研究情報部)
文部省史料館(1951年設置)が、国文学研究資料館の組織に組み入れられる
- 1977年 6月 開館式挙行
- 7月 閲覧サービスを開始
- 1979年 4月 整理閲覧部設置
- 1987年 4月 マイクロ資料目録及び当館蔵和古書目録データベースのオンライン検索サービスを開始
- 1992年 4月 国文学論文目録データベースのオンライン検索サービスを開始
- 2002年11月 創立30周年記念式典挙行
- 2003年 4月 総合研究大学院大学文化科学研究科日本文学研究専攻が設置され、基盤機関となる
- 2004年 4月 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国文学研究資料館となる
法人化に伴い、館内組織を改組
- 2008年 3月 立川市緑町の現在地に移転
- 2013年 4月 古典籍データベース研究事業センター設置
- 2014年 4月 大規模学術フロンティア促進事業「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」を開始
古典籍データベース研究事業センターを古典籍共同研究事業センターに改組
- 2019年 2月 多摩学術文化プラットフォーム「ぶらっとこくぶんけん」設立
- 2020年11月 日本古典籍研究国際コンソーシアム設立
- 2022年 4月 古典籍データ駆動研究センター設置
- 2022年 5月 創立50周年記念式典挙行
- 2024年 4月 大規模学術フロンティア促進事業「データ駆動による課題解決型人文学の創成—データ基盤の構築・活用による次世代型人文学研究の開拓—」を開始
プロジェクト推進室及び基盤データセンターを設置し、情報事業センターを基幹事業センターに改組

施設について

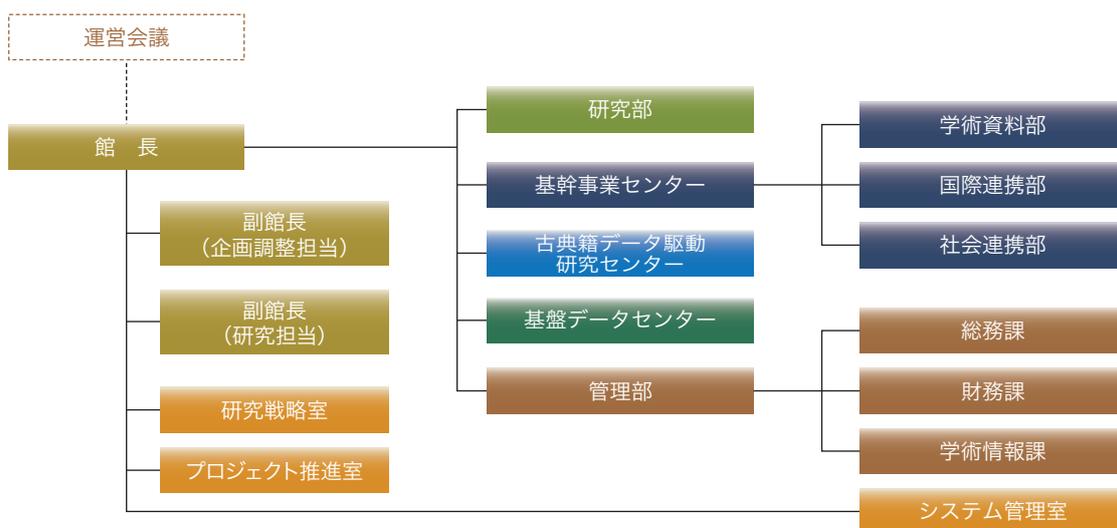
当館は、東京都区部の過密解消や、東京への諸機能の過度の集中の抑制などのために、1989年8月及び1993年6月の「国の機関等移転推進連絡会議」において移転が決定し、2008年3月に品川区から立川市に移転しました。

施設は、バリアフリー対応とし、来館者の利便性を考慮した設計としています。

来館者が利用するスペースとして閲覧室と展示室があります。閲覧室は参考図書すべて開架にしており、広々としたスペースでゆったりと閲覧ができます。また、展示室では当館所蔵の古典籍によるさまざまな展示等を行います。



組織図



運営会議

館外委員

安藤 宏	東京大学名誉教授
川平 敏文	九州大学大学院人文科学研究院教授
久富木原 玲	愛知県立大学名誉教授
倉員 正江	日本大学生物資源科学部特任教授
佐藤 至子	東京大学大学院人文社会系研究科教授
鈴木 淳	東京大学大学院人文社会系研究科教授
田淵句美子	早稲田大学教育・総合科学学術院教授、 図書館副館長
張 龍妹	北京外国語大学北京日本学センター教授
遠山 敦子	公益財団法人トヨタ財団顧問
ロバート ヒューイ	ハワイ大学マノア校名誉教授
八木 敏郎	多摩信用金庫会長
山地 一禎	情報・システム研究機構国立情報学研究所 コンテンツ科学研究系教授
山本 聡美	早稲田大学文学学術院教授

館内委員

入口 敦志	副館長(企画調整担当)
岡崎真紀子	副館長(研究担当)
大山 敬三	研究部特任教授
木越 俊介	研究部教授(研究主幹・館長補佐)
ダヴァン ディディエ	研究部教授(研究主幹)
中西 智子	研究部教授(研究主幹)
西村慎太郎	研究部教授(研究主幹)
山本 和明	研究部教授(研究主幹)

役職員

館長	渡部 泰明
副館長(企画調整担当)	入口 敦志
副館長(研究担当)	岡崎真紀子

研究部

研究主幹	木越 俊介
研究主幹	ダヴァン ディディエ
研究主幹	中西 智子
研究主幹	西村慎太郎
研究主幹	山本 和明

基幹事業センター

センター長(併任)	入口 敦志
学術資料部長(併任)	木越 俊介
国際連携部長(併任)	ダヴァン ディディエ
社会連携部長(併任)	中西 智子

古典籍データ駆動研究センター

センター長(併任)	大山 敬三
-----------	-------

基盤データセンター

センター長(併任)	山本 和明
-----------	-------

システム管理室

室長(併任)	木越 俊介
--------	-------

総合研究大学院大学先端学術院

日本文学研究コース長	西村慎太郎
------------	-------

管理部

管理部長	秋庭 祥亜
総務課長	笠原 政宏
財務課長	内海 隆博
学術情報課長	片岡 真

教員一覧 (2025年4月1日現在)

館長

氏名	研究内容
渡部 泰明 WATANABE Yasuaki	和歌史の研究

研究部

氏名	職名	研究内容
入口 敦志 IRIGUCHI Atsushi	教授 副館長 (企画調整担当)	近世文学研究
岡崎 真紀子 OKAZAKI Makiko	教授 副館長 (研究担当)	中古・中世文学、和歌文学の研究
木越 俊介 KIGOSHI Shunsuke	教授 (研究主幹・館長補佐)	日本近世文学、特に小説史の研究
ダヴァン ディディエ DAVIN Didier	教授 (研究主幹)	中世仏教と文学
中西 智子 NAKANISHI Satoko	教授 (研究主幹)	平安時代文学、物語文学
西村 慎太郎 NISHIMURA Shintaro	教授 (研究主幹) *日本文学研究コース長 (総研大)	福島県原発事故被災地域の歴史資料保全と大字誌編纂
山本 和明 YAMAMOTO Kazuaki	教授 (研究主幹)	19世紀日本文学研究
神作 研一 KANSAKU Ken'ichi	教授	日本近世文学、特に和歌史・学芸史の研究
齋藤 真麻理 SAITO Maori	教授	中世文学の研究、特に室町の文学と芸術
藤實 久美子 FUJIZANE Kumiko	教授	日本近世・幕末維新期の政治文化の研究、書籍史料論の構築
大山 敬三 OYAMA Keizo	特任教授	情報学、情報検索、特に研究用データセットの構築と共同利用に関する研究
太田 尚宏 OTA Naohiro	准教授	近世日本における地域行政の研究、近世史料学の研究
川上 一 KAWAKAMI Hajime	准教授	日本中世文学、特に室町期和歌文学
菊池 信彦 KIKUCHI Nobuhiko	准教授	デジタルヒストリーおよびデジタルパブリックヒストリー、近現代スペイン史
北村 啓子 KITAMURA Keiko	准教授	人文学分野における情報利用技術の研究
栗原 悠 KURIHARA Yutaka	准教授	日本近代文学における幕末・明治維新期の表象
高尾 祐太 TAKAO Yuta	准教授	中世文学、特に文芸と知識基盤の研究
多田 蔵人 TADA Kurahito	准教授	日本近代文学における「引用」の研究
山本 嘉孝 YAMAMOTO Yoshitaka	准教授	日本漢文学、特に江戸・明治期の漢詩文
押海 圭一 OSHIUMI Keiichi	特任准教授	研究評価、特に人文系研究評価、政策研究
松原 哲子 MATSUBARA Noriko	特任准教授	古典籍を対象とするマテリアル分析・18世紀の草双紙を中心とする日本文学の研究

氏名	職名	研究内容
守岡 知彦 MORIOKA Tomohiko	特任准教授	漢字情報学、文字オントロジーに基づく文字処理、一般キャラクター論
江戸 英雄 EDO Hideo	助教	中古文学、特に物語文学の研究
ノット ジェフリー KNOTT Jeffrey	助教	中世における古典学・古典文学の受容史研究
河田 翔子 KAWATA Shoko	特任助教	中世説話文学、特に古記録・古注釈にみえる説話的要素の研究
竹内 綾乃 TAKEUCHI Ayano	特任助教	平安文学のテキストを対象としたデータ駆動型の研究
大和 あすか YAMATO Asuka	特任助教	近世資料の色材を中心とした材料分析

■ 古典籍データ駆動研究センター

氏名	職名	研究内容
大山 敬三 OYAMA Keizo	センター長(併任)	情報学、情報検索、特に研究用データセットの構築と共同利用に関する研究
神作 研一 KANSAKU Ken'ichi	副センター長(併任)	日本近世文学、特に和歌史・学芸史の研究
菊池 信彦 KIKUCHI Nobuhiko	副センター長(併任)	デジタルヒストリーおよびデジタルパブリックヒストリー、近現代スペイン史
木越 俊介 KIGOSHI Shunsuke	教授(併任)	日本近世文学、特に小説史の研究
西村 慎太郎 NISHIMURA Shintaro	教授(併任)	福島県原発事故被災地域の歴史資料保全と大字誌編纂
山本 和明 YAMAMOTO Kazuaki	教授(併任)	19世紀日本文学研究
松原 哲子 MATSUBARA Noriko	特任准教授(併任)	18世紀の草双紙(赤本・黒本青本)を中心とする日本文学の研究
守岡 知彦 MORIOKA Tomohiko	特任准教授(併任)	漢字情報学、文字オントロジーに基づく文字処理、一般キャラクター論
竹内 綾乃 TAKEUCHI Ayano	特任助教(併任)	平安文学のテキストを対象としたデータ駆動型の研究
大和 あすか YAMATO Asuka	特任助教(併任)	近世資料の色材を中心とした材料分析

■ 基盤データセンター

氏名	職名	研究内容
山本 和明 YAMAMOTO Kazuaki	センター長(併任)	19世紀日本文学研究
岡崎 真紀子 OKAZAKI Makiko	副センター長(併任)	中古・中世文学、和歌文学の研究
木越 俊介 KIGOSHI Shunsuke	教授(併任)	日本近世文学、特に小説史の研究
川上 一 KAWAKAMI Hajime	准教授(併任)	日本中世文学、特に室町期和歌文学
菊池 信彦 KIKUCHI Nobuhiko	准教授(併任)	デジタルヒストリーおよびデジタルパブリックヒストリー、近現代スペイン史
多田 蔵人 TADA Kurahito	准教授(併任)	日本近代文学における「引用」の研究
守岡 知彦 MORIOKA Tomohiko	特任准教授(併任)	漢字情報学、文字オントロジーに基づく文字処理、一般キャラクター論
竹内 綾乃 TAKEUCHI Ayano	特任助教(併任)	平安文学のテキストを対象としたデータ駆動型の研究

参考データ

職員・予算・施設(2025年度)

職員	(単位:人)	予算	(単位:千円)	施設	(単位:m ²)
館長	1	収入	1,342,156	建物面積 専有面積	13,002
教授	10	運営費交付金	1,338,799	上記の内	
准教授	8	自己収入	3,357	閲覧室	1,584
助教	2	支出	1,342,156	書庫・収蔵庫	2,416
特任教授	1	教育研究経費	775,695	展示室	355
特任准教授	3	一般管理費	566,461		
特任助教	2				
事務系職員	44				
合計	71				

科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金/科学研究費補助金)(2025年度)

研究種目	審査区分	研究代表者	研究課題名	研究期間
基盤研究(A)	一般	入口 敦志	日本文学及びその関連分野のデータ駆動のためのテキスト形成の総合研究	2022~2026
基盤研究(B)	一般	齋藤 真麻理	画題と画論および粉本の生成受容圏から見た中近世文芸の表象と展開に関する総合的研究	2023~2026
基盤研究(B)	一般	大和 あすか	近世日本における彩色文化史の解明を目的とした多色摺木版画の色材研究	2023~2027
基盤研究(B)	一般	神作 研一	近世絵入り本の基礎的研究	2024~2027
基盤研究(B)	一般	渡辺 浩一	近世・近代における〈連関〉の環境史研究の創出	2024~2028
基盤研究(B)	一般	太田 尚宏	近世における森林資源コントロールに関する基礎的研究—尾張藩を中心に—	2024~2028
基盤研究(B)	一般	岡崎 真紀子	春日大社所蔵和歌関係資料についての総合的研究	2025~2028
基盤研究(B)	一般	木越 俊介	19世紀大阪の著作権記録「株帳」をめぐる総合的研究	2025~2029
基盤研究(B)	一般	藤實 久美子	維新政権期の政府機関と府藩県刊行官版日誌の学際的総合研究とオープンデータの推進	2025~2029
基盤研究(C)	一般	山下 則子	鶴屋南北作歌舞伎における近世中期学芸の研究—異分野融合と社会還元を視野に—	2020~2025
基盤研究(C)	一般	多田 蔵人	日本近代文学と歴史的文体概念の相関に関する通史的研究	2023~2025
基盤研究(C)	一般	中西 智子	藤原道長家における『源氏物語』の長篇化に関する研究	2023~2026
基盤研究(C)	一般	押海 圭一	研究評価システムが人文系研究者に与える影響に関する研究	2023~2026
基盤研究(C)	一般	山本 和明	古典籍をめぐる幕末明治期における人的交流に関する発展的研究	2024~2027
基盤研究(C)	一般	松原 哲子	マテリアル分析で解明する18・19世紀の後印を含めた地本の展開と草双紙史再定義	2024~2027
基盤研究(C)	一般	小林 健二	江戸時代中・後期から明治時代にわたる能狂言絵の研究	2025~2028
挑戦的研究(萌芽)		守岡 知彦	学術的漢字データセットの長期維持のための技術開発	2023~2025
若手研究		ノットジェフリー	戦国期古典学史の基礎的研究—連歌師の源氏学を中心に—	2021~2025
若手研究		高尾 祐太	中世の知と文芸—『性霊集』古注積書の調査・収集と研究—	2021~2025
若手研究		栗原 悠	1920-30年代の文学テキストにおける幕末-明治維新表象の研究	2022~2025
若手研究		山本 嘉孝	伊藤東涯による漢文制作の総合的研究—江戸後期・明治期日本漢文の原型の解明	2022~2026
若手研究		竹内 綾乃	データ分析から解き明かす平安文学における話法の研究—自由間接話法を中心に—	2024~2026
若手研究		菊池 信彦	現代パルセロナにおける本の日とサン・ジョルディの日の「接続」とそのグローバル展開	2025~2029
若手研究		川上 一	室町時代公武歌会資料の基礎的研究	2025~2028
若手研究		河田 翔子	説話的要素に着目した中世古今注の成立と享受に関する基礎的研究	2025~2029
国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))		神作 研一	UCB三井文庫の調査研究とその利活用による国際的研究拠点の構築	2022~2025
特別研究員奨励費		齋藤 真麻理	中世「白居易文芸」の研究—言説形成と絵画表象—	2024~2026
研究成果公開促進費(学術図書)		岡崎 真紀子	梵漢和の中世—言語と論理の和歌史	2025
研究成果公開促進費(データベース)		木越 俊介	国文学・アーカイブズ学論文データベース	2025~2029
研究成果公開促進費(データベース)		西村 慎太郎	収蔵歴史アーカイブズデータベース	2025
研究成果公開促進費(データベース)		山本 和明	国書データベース	2025

(2025年4月1日現在)

主要出版物一覧

当館の紹介など

- 国文学研究資料館概要
- 国文研ニュース(年2回刊) ※WEB版のみ
- 国文研DDHプロジェクトニュースレター「ふみ」



国文研ニュース



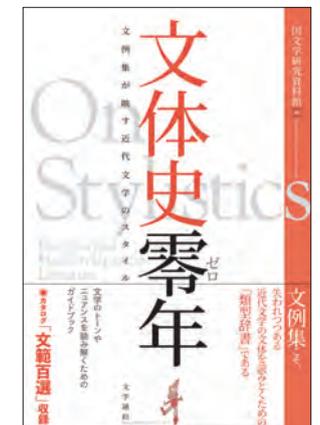
ふみ

研究成果

- 国文学研究資料館紀要 ※WEB版のみ
文学研究篇
アーカイブズ研究篇
- 共同研究成果報告書



紀要 文学研究篇



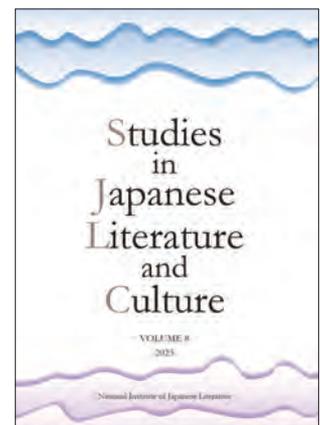
共同研究(特定研究(近代))
研究成果報告
近代文学における文例集・
実作・文学読者層の
相関の研究

事業関係

- 調査研究報告 ※WEB版のみ
- 史料目録 ※WEB版のみ
- 展示図録
- Studies in Japanese Literature and Culture
※WEB版のみ



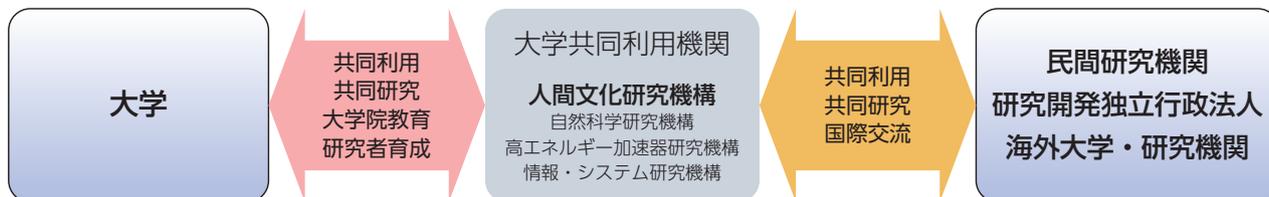
特別展示
「創立50周年記念展示
こくぶんけん〈推し〉の一冊」
図録



Studies in Japanese
Literature and Culture

大学共同利用機関とは

各々の研究分野における我が国の中核的研究拠点(COE)として、個別の大学では維持が困難な大規模な施設設備や膨大な資料・情報等を国内外の大学や研究機関等の研究者に提供し、それを通じて効果的な共同研究を実施する研究機関です。



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

人間文化研究機構(人文機構/NIHU)は、人間文化研究を推進する6つの大学共同利用機関を支え、さらなる研究の発展を図る法人として、2004年に設置されました。現在の構成機関は、以下の6機関です。

- ・国立歴史民俗博物館(歴博)
- ・国文学研究資料館(国文研)
- ・国立国語研究所(国語研)
- ・国際日本文化研究センター(日文研)
- ・総合地球環境学研究所(地球研)
- ・国立民族学博物館(民博)

6つの機関は、それぞれの研究分野における国際的な中核研究拠点として、国内外の大学等研究機関、研究者と連携して、基盤的研究及び学際的研究を推進しています。人文機構は、これら6つの機関同士、あるいは機構内の機関と機構外の大学等とをつなぎ、研究資源の構築、実証的研究、理論的研究を進めるとともに、自然科学との連携を含む新しい研究領域の創成を目指して、人間文化に関する総合的な学術研究とその発信に取り組んでいます。



人文機構のミッションとビジョン

【ミッション】

人文機構は、人間文化研究に関する唯一の大学共同利用機関法人として、人間とその文化を総合的に探究し、その探求を通じて、真の豊かさを問い、自然と人間の調和を図り、人類の存続と共生に貢献することをミッションとしています。

【ビジョン】

ミッションの実現に向けて、法人第4期には、人間文化の多様性や社会の動態を踏まえて、現代社会のさまざまな課題を追究し、その解決を志向するとともに、人と自然が調和し、科学技術と人間性が共存する未来社会の実現のための指針となるべき新しい価値観や人文知を提示することを目標としています。その達成のために、社会に開かれた新たな知の形成を目指して、2022年4月に人間文化研究創発センターを設置しました。センターでは、国内外のさまざまな人々との共創による開かれた人間文化研究という理念のもと、デジタル技術を用いた研究基盤を構築するとともに、その基盤を活用した共同研究を推進し、さらに社会のさまざまな人々との交流と協働の場としての「知のフォーラム」の形成、国際的なネットワーク形成に取り組んでいます。

開かれた人間文化研究をめざす「人間文化研究創発センター」

人間文化研究創発センターでは、人文機構のミッションとビジョンに基づき、「基幹研究プロジェクト」と「共創先導プロジェクト」を推進しています。

■ 基幹研究プロジェクト

機構の根幹をなす人間文化に関する基盤的・学際的研究として、3類型11の研究プロジェクトを実施し、学術ネットワークの拡大や新分野創出等によって、大学共同利用機関としての使命の実現を図っています。

【機関拠点型】 人文機構の6機関が主体となつて実施するプロジェクト	日本歴史文化知の構築と歴史文化オープンサイエンス研究(歴博)
	データ駆動による課題解決型人文学の創成(国文研)
	開かれた言語資源による日本語の実証的・応用的研究(国語研)
	「国際日本研究」コンソーシアムのグローバルな新展開―「国際日本研究」の先導と開拓―(日文研)
	自然・文化複合による現代文明の再構築と地球環境問題の解決へ向けた実践(地球研)
【広領域連携型】 機構内の複数の機関が連携して実施するプロジェクト	フォーラム型人類文化アーカイブズの構築にもとづく持続発展型人文学研究の推進(民博)
	横断的・融合的な地域文化研究の領域展開：新たな社会の創発を目指して(主導機関：歴博・民博)
	人新世に至る、モノを通じた自然と人間の相互作用に関する研究(主導機関：地球研)
【ネットワーク型】 他の大学や研究機関と連携して実施するプロジェクト	異分野融合による総合書物学の拡張的研究(主導機関：国文研)
	グローバル地域研究推進事業(主導機関：民博)
【ネットワーク型】 他の大学や研究機関と連携して実施するプロジェクト	歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業(主導機関：歴博)

■ 共創先導プロジェクト

各機関及び国内外の大学等研究機関が連携して、研究資源や研究成果の共有化及び地域との共創・協働等を通して社会に貢献するプロジェクトです。これらを通して、「社会共創」「デジタル化」「国際共創」という3つの研究展開を図ります。

3つの研究展開	共創促進研究	共創促進事業
	機構内外の多様な組織や人々との共創による共同研究を推進し、3つの研究展開を促進します。	3つの研究展開を加速化させるための事業を実施し、機構内機関及び機構外大学等研究機関の研究の高度化・創発を図ります。
社会共創	コミュニケーション共生科学の創成	知の循環促進事業
デジタル化	学術知デジタルライブラリの構築	デジタル・ヒューマニティーズ(DH) 促進事業
国際共創	日本関連在外資料調査研究	国際連携促進事業

【TOPICS】DiHuCo[※] (DHコンソーシアムプロジェクト) がスタートしました。

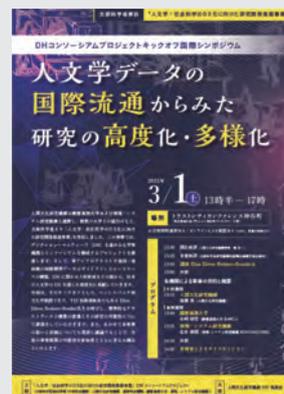
人間文化研究機構は、慶應義塾大学および情報・システム研究機構と連携し、複数の大学との協力のもと、文部科学省より「人文学・社会科学のDX化に向けた研究開発推進事業」を受託しました。この事業では、デジタルヒューマニティーズ(DH)を進める大学等機関とコンソーシアムを構成するプロジェクトを推進します。

そして、東アジアのテキストや地図・地誌類の国際標準データのガイドラインとユースケースの構築、DHに関わる人材育成などの面から、日本の人文学のDXを通じた高度化に貢献していきます。

DHコンソーシアムプロジェクト(DiHuCo)キックオフ国際シンポジウムの様子



※ DiHuCo : The Digital Humanities Consortium Project of Japan





『彩画職人部類』
灘沙鹿亀求撰
玉樹軒橋岷江画

交通のご案内

多摩都市モノレール利用の場合

JR立川駅下車、多摩モノレール立川北駅に乗り換え、高松駅下車、徒歩10分

立川バスの場合

JR立川駅北口2番のりば乗車、「立川学術プラザ」バス停下車、徒歩1分

JR立川駅北口1番のりば乗車、「立川市役所」バス停下車、徒歩3分

JR立川駅北口2番のりば乗車、「裁判所前」バス停下車、徒歩5分

徒歩の場合

JR立川駅下車、徒歩約25分

自動車利用の場合

中央自動車道「国立府中IC」から約15分 ※無料駐車場あり



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
国文学研究資料館

〒190-0014 東京都立川市緑町10-3

TEL: 050-5533-2900

<https://www.nijl.ac.jp/>

National Institute of Japanese Literature (NIJL)
National Institutes for the Humanities

Address: 10-3 Midori-cho, Tachikawa city, TOKYO 190-0014, Japan
TEL: +81-50-5533-2900

